

来週の『売り物』記事はこれ



2016年5月20日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

九代玉屋庄兵衛 からくり人形の世界

22日(日)



大阪万博や伊勢志摩サミットなど世界的なイベントで、精巧な日本のものづくりの原点として紹介される機会の多い「からくり人形」。江戸時代から約280年間にわたり、人形師の名跡・玉屋庄兵衛はその制作や修理の技を尾張地方で伝えてきました。1995年、兄の病死で予期せず名跡を継いだ現在の九代目(本名・高科庄次さん)は、襲名披露にあたって座敷からくりの最高傑作とされる「弓曳き童子」を寸分たがわず複製しました。一辺約30センチの台の上に座った人形が4本の矢を次々と右手につかみ上げ、左手に持った弓につがえて的に命中させる。「どうだ」と言わんばかりに笑みを浮かべたように見える人形。九代を軸に名跡継承の物語とからくりの奥深い世界を描きます。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

自民党「憲法改正草案Q&A」への疑問

「大きな人権」「小さな人権」って何？

夕刊特集ワイド 23日(月)



自民党が憲法改正の入り口として検討している「緊急事態条項」。大災害などの際、内閣は法律と同じ効力を持つ政令を制定でき、国民は政府の指示に従うことを求められるというものです。自民党の改憲草案Q&Aには「生命、身体、財産という大きな人権を守るため、より小さな人権がやむなく制限されることもあり得る」とあります。でも、制限してもよい「小さな人権」って何なのでしょう。そして、そうした発想の先にある社会とは？

第71期本因坊戦第2局 23日(月)、24日(火)

第71期本因坊戦第2局が23、24日、兵庫県尼崎市で打たれます。第1局は挑戦者の高尾紳路九段が井山裕太本因坊=写真=に快勝しました。

高尾九段は持ち前の重厚な打ち回しがさえ渡って粘る井山本因坊を振り切り、4度目の本因坊に向けて幸先良いスタートを切りました。連勝すれば勢いがつきそうです。井山本因坊は、さきごろ手にした7冠のタイトルで、最初の防衛戦です。勝って五分に押し戻すか。目が離せません。



第74期名人戦第4局 24日(火)、25日(水)



第74期名人戦第4局の舞台は、広島県福山市が舞台です。24、25の2日間。ここまで挑戦者の佐藤天彦八段が2勝し、羽生善治名人=写真=に先行しています。開幕局は羽生名人が横綱相撲で寄り切ったものの、佐藤八段は第2局で逆転勝ちを手にし、第3局も勢いに乗って連勝しました。

第4局で佐藤八段が勝てば、タイトル奪取まであと1勝。羽生名人は勝って流れを変えたいところ。世代交代を迫る佐藤八段、トップの意地を見せたい羽生名人。双方にとって正念場です。

ネットでの炎上を防ぐには くらしナビA面 25日(水)

「匿名だから誰にもばれない」。そんな安易な考えでインターネットのブログや掲示板、SNSに書き込むと、あっという間に非難が集まり「炎上」します。社会問題に発展してしまうケースもあります。騒動をどう防ぐべきでしょうか。正しく怖がり、有益に使いこなすために、全国各地で啓発活動に取り組む専門家に「ネットへの正しい向き合い方」を聞きます。



3世代同居を始める前に くらしナビA面 28日(土)



「子育て世代を祖父母が支援できるようにする」として、安倍政権は「3世代同居」住宅を建てた世帯に対する優遇措置を始めました。改修費用の一部が所得税から控除されるため、工務店は「今がお得」と改築を勧めます。とはいえ、老夫婦、若夫婦、孫の同居が始まると思惑の違いが表面化することもあります。同居を決める前に検討しておくべきことを考えます。

女の気持ちをたずねて おんなのしんぶん 23日(月)

「女の気持ち」に掲載された投稿者を記者が訪ねる人気コーナー。今回は、1年前に亡くなった夫に宛てて「53年ぶりの恋文」を書いた74歳女性宅を訪問します。孫の大学進学を楽しみにしていた夫は、入試結果を待たずに他界。孫は目標としていた大学に軒並み合格しました。妻が「夫が先に旅立ってよかった」と語る理由は……。ひりひりする夫婦愛が胸を打ちます。



カリスマ経営者の“暴走、止めた!?”

企業統治「コーポレートガバナンス」のあり方

オピニオン面 論点 25日(水)



流通大手のセブン&アイ・ホールディングスを舞台にした人事のドタバタ劇。仕掛けた鈴木敏文氏(83)は、26日の株主総会を区切りに一線を退くことになりました。カリスマとたたえられた経営者のあっけない退場……。今回の事態を契機に、企業の透明性や公平性を確保する「企業統治」の機能が改めて注目されています。専門家らに企業統治のあり方を問いました。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。